

I. 建学の精神・大学の基本理念及び使命・目的、大学の個性・特色

1. 福井工業大学の建学の精神と基本理念

学校法人金井学園（以下「金井学園」という。）により設置されている福井工業大学（以下「本学」という。）は、附属高等学校及び附属中学校を併設する総合学園の中核であり、その歴史は、金井兼造前総長・学園長により、昭和25(1950)年に北陸電気学校が創立された時に始まる。金井兼造前総長・学園長は、著書の中で「我が日本は極めて資源の乏しい国なので、将来の興隆と発展を望むには天与の叡智と生来の勤勉に加えて技術、技能を開発する以外には方法はない」と述べており、その精神に沿って北陸電気学校が設立された。

金井学園建学の精神（以下「建学の精神」という。）「**悠久なる日本民族の歴史と伝統とに根ざした愛国心を培い、節義を重んずる人格の育成、科学技術の研鑽に努め、以て人類社会の福祉に貢献する**」は、学園創業者である金井兼造前総長・学園長によるものであり、本学は、開学以来一貫して建学の精神を具現する大学として、健全な人格を身に付けた実践的な技術者を育成し社会に送り出すことを通して社会の発展と繁栄に寄与することを基本理念として発展してきた。現在は、1研究科、1学部7学科からなる、地域に根ざした工科系大学として、社会に貢献できる人間性豊かな実践的技術者を数多く世に送り出している。

2. 福井工業大学の使命・目的

建学の精神に謳われている「人格の育成」は、本学の教育の根幹をなす理念であり、「科学技術の研鑽」は、教員学生共々自らを研鑽し、質の高い工学教育を授受することを意味している。建学の精神及び基本理念に基づく本学の使命・目的は以下のように要約される。

- (1) 国家・社会の形成者にふさわしい人格と教養を身に付け、人類社会に貢献する高い志をもつ人材の育成
- (2) 日本の歴史・文化を正しく理解し、自国を愛する健全な精神を身に付けた真の国際人の育成
- (3) 質実剛健な気風を養い、人格円満にして高い徳性を身に付けた社会人の育成
- (4) 多様かつ急速な科学技術の変化にも柔軟に対応できるように十分な工学基礎知識と専門知識を身に付けた技術者の育成
- (5) 創造的に物事を考え、自主的に課題を解決する能力を身に付けた実践的な技術者の育成

以上、本学の使命・目的は、建学の精神に適い 21 世紀の社会で活躍できる人材には不可欠の素養を学生一人一人に身に付けさせることである。

3. 福井工業大学の個性・特色

本学は、工科系大学でありながら人格教育を一つの柱に据え、人間として社会から歓迎される実務的な技術者を育成することを目指した、「教育第一主義」を特色とする大学である。少子高齢化が著しく進み 18 歳人口のほぼ半数が大学に進学するこの時代に、我が

国の工科系大学にとって必要なことは、人格・教養と専門知識をバランスよく身に付けて、現場で「ものづくり」に喜びを感じることができる実践的な技術者の育成であり、これは、徳育を知育と対等もしくはそれ以上に位置付けた人間教育を力強く実践してきた金井学園の教育理念に適合している。

工学部を唯一の主体とする本学においては、学校教育法等の定めに従い、科学技術に関する広い基礎知識と専門知識を学生に付与することは勿論、21世紀社会に調和する倫理観とモラルをもち、文化と科学技術の根本を理解し、それに携われる基本的な能力を備え、我が国のみならず、世界で活躍できる人材を養成することを本学の特色としている。

一方、「すべてを学生のために」をモットーに掲げ、大都市の大学にはない、少人数グループによる懇切丁寧な学習指導、学生生活指導、就職支援を学生に提供し、さらには、行き届いた学習環境、豊富な運動施設、健康増進施設などを利用して、学生が快適な大学生活を送れるように万全を尽くしていることが、本学の地域的な特色である。

II. 福井工業大学の沿革と現状

1. 本学の沿革

(1) 学校法人金井学園と福井工業大学の生い立ちと発展

北陸電気学校創立から9年後の昭和34(1959)年2月に、金井兼造前総長・学園長は学校法人金井学園を設立し、同年4月、電気科、建築科を中心に福井実業高等学校を開校した。日本経済の躍進が続く中で高度技術者養成への社会的な要望及び繊維産業への依存から脱却し、新しい産業の振興を図らなければならない福井県産業界の要望を背景に、昭和38(1963)年4月に福井短期大学が設立された。初年度は電気科のみであったが、翌年度には機械科と家政科が増設された。

その後の昭和40(1965)年4月に、電気工学科(定員40人)と機械工学科(定員40人)の2学科からなる4年制工業大学として本学が開学された。翌年の昭和41(1966)年4月に、建設工学科(定員40人)が増設され、昭和48(1973)年4月には、当時社会問題になっていた公害問題や原子力利用の問題に対応するために4番目の学科として応用物理学科(定員40人)が増設された(平成15(2003)年度に「環境・生命未来工学科」に改称)。昭和62(1987)年4月には、情報化社会に対応した経営者・経営管理者の養成を目的として、経営学と情報工学を教育研究の2本柱とする経営工学科(定員80人)が新設された(平成16(2004)年度に「経営情報学科」に改称)。さらに、平成13(2001)年4月には、宇宙関連技術者の育成及び宇宙に関する広範囲の基礎知識を身に付けた人材の育成を目的として、全国の大学に先駆けて宇宙通信工学科(定員40人)が設置された。平成17(2005)年4月には、地域への貢献と我が国のエネルギー問題の将来展望から、実務能力と工学倫理を備えた新時代の原子力技術者を養成するために、原子力技術応用工学科(定員20人)が開設され、現在の学科構成に至っている。

昭和60(1985)年4月には大学院工学研究科修士課程が設置され、当初、機械工学、建設工学、環境安全工学の3専攻であったが、1年後に電気工学専攻も加わった。さらに、平成2(1990)年4月には、電気工学専攻と環境安全工学専攻(平成元(1989)年に「応用理化学専攻」に改称)の2専攻からなる大学院工学研究科博士課程が設置された。

昭和50(1975)年 10 月には、「カナイ産業工学研究所」が創設され、3年後には「福井工業大学産業工学研究所」に改編された。当研究所は地域産業あるいは広く社会に役立つ産業機器や工業製品の研究開発を行い、合わせて地域産業との技術交流を行うことが目的であった。産業工学研究所は、本学が地域産業との技術連繫をこれまで以上に強力に図っていく意図から、平成14(2002)年 4 月から「産学共同研究センター」に改組された。

福井工業大学を擁する金井学園は、約 8 万坪の校地を有し、他に附属福井高等学校、同衛生看護専攻科、附属福井中学校から構成され、平成19(2007)年 5 月 1 日現在、学生・生徒数合計 3,733 人、教職員 362 人（うち、大学は、学生数 2,302 人、教職員 222 人）を擁する北陸有数の総合学園として着実に発展している。

(2) 福井工業大学の主な沿革

昭和 25(1950)年 4 月	北陸電気学校を創設
昭和 40(1965)年 4 月	福井工業大学開学（電気工学科、機械工学科）
昭和 41(1966)年 4 月	建設工学科増設
昭和 42(1967)年 4 月	建設工学科専攻分け（建築・土木専攻）
昭和 47(1972)年 4 月	電気工学科専攻分け（電気・電子専攻） 機械工学科専攻分け（機械・原動機専攻）
昭和 48(1973)年 3 月	電子計算機室開設
昭和 48(1973)年 4 月	応用物理学科増設（環境安全・原子力専攻）
昭和 50(1975)年 4 月	機械工学科専攻廃止
昭和 50(1975)年10月	カナイ産業工学研究所創設
昭和 53(1978)年 4 月	カナイ産業工学研究所を福井工業大学産業工学研究所に改称
昭和 54(1979)年 4 月	応用物理学科を環境安全工学科に改称
昭和 57(1982)年 4 月	電気工学科専攻名変更（電気工学・電子工学専攻） 建設工学科専攻名変更（建築学・土木工学専攻）
昭和 58(1983)年 4 月	機械工学科専攻分け（機械工学・電子機械専攻）
昭和 60(1985)年 4 月	大学院工学研究科修士課程開設（機械工学・建設工学・環境安全工学専攻） 環境安全工学科専攻変更（環境工学・安全工学専攻）
昭和 61(1986)年 4 月	大学院工学研究科修士課程に電気工学専攻増設
昭和 62(1987)年 4 月	経営工学科増設
昭和 63(1988)年 4 月	環境安全工学科を応用理化学科に改称、同時に専攻廃止
昭和 63(1988)年 5 月	金井学園電子計算機センター開設
平成元(1989)年 4 月	大学院工学研究科の環境安全工学専攻を応用理化学専攻に改称
平成 2(1990)年 4 月	大学院工学研究科博士課程開設（電気工学・応用理化学専攻）
平成 9(1997)年 4 月	福井工業大学技術システム研究館開設
平成 10(1998)年 4 月	応用理化学科専攻分け（応用科学・介護福祉工学専攻）

平成 11(1999) 年 4 月	経営工学科専攻分け（マルチメディア工学・経営デザイン工学専攻）
平成 12(2000) 年 4 月	機械工学科専攻廃止
平成 13(2001) 年 4 月	宇宙通信工学科増設 電気工学科を電気電子工学科に改称し、専攻を廃止 建設工学科土木工学専攻を地球環境工学専攻に改称
平成 14(2002) 年 4 月	応用理化学科応用科学専攻を環境・生命未来工学専攻に改称 福井工業大学産業工学研究所を産学共同研究センターに改組
平成 15(2003) 年 4 月	応用理化学科を環境・生命未来工学科に改称
平成 16(2004) 年 4 月	経営工学科を経営情報学科に改称し、経営デザイン工学専攻を経営情報システム工学専攻に改称
平成 17(2005) 年 4 月	原子力技術応用工学科設置
平成 18(2006) 年 4 月	地球環境工学専攻を土木環境工学専攻に改称

2. 本学の現状

・対象大学名 福井工業大学

・所在地

校 地	所 在 地
福 井 校 地	福井県福井市学園3丁目6番1号
芦 原 校 地	福井県あわら市北潟213字21番地
中 央 校 地	福井県福井市中央1丁目11-14

・学部及び大学院の構成

学部

工 学 部	学 科	専 攻
	電気電子工学科	
	機械工学科	
	建設工学科	建築学専攻 土木環境工学専攻
	環境・生命未来工学科	
	経営情報学科	マルチメディア工学専攻 経営情報システム工学専攻
	宇宙通信工学科	
	原子力技術応用工学科	
	教養部	

大学院

工 学 研 究 科	修士課程	電気工学専攻
		機械工学専攻
		建設工学専攻
		応用理化学専攻
	博士後期課程	電気工学専攻
		応用理化学専攻

・学部及び大学院の学生数

学部

学部	学 科	入学 定員	編入学 定 員	収 容 員	在籍学 生総数	編入 学生数 (内数)	在籍学生数							
							第1年次		第2年次		第3年次		第4年次	
							学生数	留年 者数 (内数)	学生数	留年 者数 (内数)	学生数	留年 者数 (内数)	学生数	留年 者数 (内数)
工 学 部	電気電子工学科	110	10	465	370	4	62	0	75	0	113	0	120	6
	機械工学科	120	10	505	572	4	117	0	124	0	171	0	160	10
	建設工学科	177	20	758	615	4	112	0	141	0	186	0	176	22
	環境・生命未来 工学科	60	6	255	168	1	21	0	36	0	46	0	65	9
	経営情報学科	100	15	440	449	4	126	0	111	0	101	0	111	11
	宇宙通信工学科	30	5	132	43	0	11	0	11	0	10	0	11	1
	原子力技術応用 工学科	20	4	90	35	0	11	0	10	0	14	0		
合 計	617	70	2,645	2,252	17	460	0	508	0	641	0	643	59	

大学院

課程	専 攻	入 学 定 員	収 容 員	在籍学 生総数	在籍学生数		
					第1年次	第2年次	第3年次
修 士 課 程	電気工学専攻	5	10	15	5	10	
	機械工学専攻	5	10	9	2	7	
	建設工学専攻	5	10	11	6	5	
	応用理化学専攻	5	10	9	5	4	
	情報学専攻	5	10	1	1	0	
	合 計	25	50	45	19	26	
博 士 課 程	電気工学専攻	3	9	1	0	0	1
	応用理化学専攻	3	9	4	0	2	2
	合 計	6	18	5	0	2	3

・教員数

学部・学科、研究科・専攻 研究センター等		専任教員数				助教	設置基準上 必要専任 教員数	兼 担 教員数	兼 任 教員数
		教授	准教授	講師	計				
工 学 部	電気電子工学科	18	2	0	20	0	10		1
	機械工学科	20	1	1	22	1	10		0
	建設工学科	19	12	1	32	0	12		8
	環境・生命未来工学科	10	2	2	14	0	8		1
	経営情報学科	10	5	4	19	0	9		2
	宇宙通信工学科	9	1	1	11	0	8		0
	原子力技術応用工学科	9	2	0	11	0	8		0
計	95	25	9	129	1	65		12	
工 学 研 究 科	電気工学専攻	0	0	0	0	0		34	0
	機械工学専攻	0	0	0	0	0		25	0
	建設工学専攻	0	0	0	0	0		33	0
	応用理化学専攻	0	0	0	0	0		21	0
	情報学専攻	0	0	0	0	0		19	0
計	0	0	0	0	0		132	0	
産学共同研究センター		0	0	0	0	0		15	
電子計算機センター		0	0	0	0	0		4	
FUTメカニックセンター		0	0	0	0	0		1	
学生生活センター		0	0	0	0	0		1	
学習支援センター		0	0	0	0	0		11	
SSL		0	0	0	0	0		0	
大学全体の収容定員に定める専任教員数					25		26		
合 計		95	25	9	154	1	91	164	12

・職員数

	専任 職員	嘱託 職員	パート	計
事 務 系	48	11	1	60
医 療 系	1	0	0	1
教 務 系	6	8	0	14
計	55	19	1	75

